三木卓詩集 1957—1980

著者——三木卓
発行者——鈴木誠
発行所——(株)れんが書房新社
東京都新宿区三栄町十日鉄四谷コーポ 電話東京三五八—七五三一
編集協力——百鬼界
装幀者——宮園洋
印刷所——(有)文昇堂
製本所——古賀製本(株)
製函所——永井紙器印刷(株)
発行日——一九八一年十二月十日
定価——六八〇〇円
© 1981 by Taku Miki 0092-811039-9114

三木卓詩集

1957—1980

れんが書房新社

三木卓詩集 1957—1980 *目次

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

東京午前三時 以前 9
東京午前三時 27
わがキディ・ランド 161
子宮 329
雫 427

雫 前後 489
壁の絵 509
おりふしの歌 1966 545
少年の詩 591
作品細目 629

川长明监摄 1957—1980

東京午前三時以前

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

支度のときに

幼児達の午睡のときに
ぼくは広場を歩きつづけよう
傘におおわれた細い葉が
幼児達の色あせた肌色と
おびただしい馬車の足あとと
横たわった木々の枝のうえに
かたくなにねむっていた
ぼくはきっと夢を見ないだろう
だがぼくは拒まないだろう

11　東京午前三時　以前

この無い時がどこまでも続くことを
探しがいのある一つの謎があることを

人は雨のように流れていた
傘はいつもしあわせに堪えていた
だが怖れはこうしていつも
歯のように柔和だ
幼児達は笑わなかった
頬に氷をあててがまんしながら
お医者さんへかけて行った

ぼくは季節を忘れないだろう
水はすべてをおぼえていることができる
祈りはこころのように

だれの部屋にもたたずんでいる
雨はどこかに流れていくが
季節とともにとりのこされたものがある
街路樹は日暦(ひめくり)を樹肌の傷跡でしるし
幼児達はそのためにナイフを持っている

播種伝説

木の四肢はひろがり
とげをふるいおとしながら　からみ合って
やがて生長する。
おだやかに厚肉の葉をかさね合わせ
彼の意のままに　やわらかい
幹の皮をけずり
ゆずれぬ調和を八方に結ぶ。

彼は湿地に足を折りかさね

腕の筋肉をふくらませて
うけとめようとする
彼と木を合わす　長く
たるんだ管(くだ)を。
木を育てた年を数えながら
彼は身体を動かさない。

彼のいない番小屋を
びっしりと埋め始めた種子
適度の水と光をうちに含んで
古代樹林の信仰と帰依を
再び呼びもどすか。
張りつめた表層の
剝げた肉部を枝はまさぐり

すべては同じ愛撫をめぐらせるか。

死葉の層に
彼は身を傾けてねむり
ひざをまげて奥へすべる。
だが　ある日
発掘され発見される
彼のひたいには
地の軸が　何かをえがききろうとして
深くさしこまれているのが。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com